

水戸芸術館開館 30 周年記念事業

森英恵 世界にはばたく蝶



Illustrated by Tony Viramontes
Copyright Tony Viramontes Studio Archive, Courtesy of Dean Rhys Morgan, Works On Paper

【展覧会概要】

展覧会名：森英恵 世界にはばたく蝶

会 期：2020年2月22日（土）～5月6日（水・振）

開館時間：9:30～18:00（入場は 17:30 まで）

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日、2月25日（火） ※ただし2月24日、5月4日（月・祝）は開館

入 場 料：一般 900 円、前売・団体（20 名以上）700 円

高校生以下・70 歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です。詳しくはお問合せください。

◎一年間有効フリーパス「年間パス」2,000 円

◎学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と 65 歳～69 歳の方は、毎月第一金曜日（3月6日、4月3日、5月1日）100 円

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協 賛：株式会社アダストリア、医療法人真成会たきもとクリニック

協 力：森英恵事務所、株式会社ハナエモリ・アソシエイツ、株式会社インファス・ドットコム、
四季株式会社、日活株式会社、松竹株式会社、NHK、株式会社息吹工芸社、株式会社アバクス、
サントリーホールディングス株式会社

企 画：水戸芸術館

企画協力：島根県立石見美術館、株式会社 Studio 仕組

【概要】

私の蝶は銀色に輝くジェット機のイメージよ——。日本のファッションデザイン界のパイオニアである森英恵のこの言葉には、自身の代表的なモチーフである蝶に込められた想いが詰まっています。戦後の復興期にファッションデザイナーとして走り出し、東西の文化を融合させながら世界にはばたく力強い女性として活躍してきた森。1965年にニューヨークで初の海外ショー、1977年には東洋人で初めてパリ・オートクチュール組合の会員となり、世界的なファッションデザイナーとしてその名を知られるようになりました。自身の名前を冠したブランドはもちろん、時代とともに第一線を駆け抜けてきた姿は、女性の社会進出の先駆けを象徴する憧れの女性像として人々に愛され続けてきました。本展では森が、半世紀に渡り手がけてきたオートクチュールや映画、舞台の衣裳、ユニフォームなど、多岐にわたる手仕事の作品を通し、激動の時代をしなやかに切り拓いてきた彼女の足跡を紹介します。



【作家プロフィール】

森英恵（もりはなえ）

1951年スタジオを設立。日本映画全盛期に数多くの衣裳デザインを担当する。1965年ニューヨークで初の海外コレクションを発表、「EAST MEETS WEST」と絶賛される。1977年パリにメゾンをオープンし、オートクチュール組合に属する唯一の東洋人として国際的な活動を展開。日本ファッション界の草分け的な存在になり、国境を越えた「美の大使」と高く評価されている。現在は衣裳展の開催や若手の育成など、「手で創る」をテーマに活動。「文化勲章」「紫綬褒章」「朝日賞」「レジオン・ドヌール勲章オフィシエ」他、受賞多数。

【見どころ】

○蝶のオートクチュール

作品のみならず自身も「マダムバタフライ」と称されるほど、森英恵は永年にわたって蝶を描いた作品を創り続けてきました。ひとつのモチーフから多彩な表現が生み出され、森の手によって輝きを与えられた蝶たちはきらびやかなショーのスポットライトの下で美しくはばたいてきました。その世界観をイメージした展示空間の中で、蝶をあしらった数々のオートクチュールを展示します。

○多彩なオートクチュール

東洋の美意識と西洋的フォルムから生み出される森のオートクチュールは「東洋と西洋の出会い」として世界で賞賛されてきました。世界のファッションの中心、パリで発表した数々のオートクチュールの中から、特徴的な技法や素材、テキスタイルなどに注目し、厳選された作品を展示します。

○蝶の舞う映像空間

幼少期をすごした島根の六日市町には、辺り一面に自然の色彩が溢れ、紋白蝶が飛び交っていたそうです。その思い出の原風景からオートクチュールの世界へとばたいた森の蝶たち。本展では森が蝶に込めたインスピレーションをイメージした体験型映像作品を展示室に設けました。衣裳から抜け出した蝶が美しく舞う姿を、没入感ある空間でお楽しみいただけます。

演出：齋藤達也、CG：福田泰崇、音楽：LADER production

○創作の現場、アトリエより

華やかな世界の舞台裏には、創り手たちの努力が詰まったもう一つの現場があります。50年代、森がファッションデザイナーとしてのキャリアをスタートした新宿の「ひよしや」時代の写真とともに、オートクチュール制作に欠かせない素材や創り手の息吹を感じさせる道具を展示します。

○ 森英恵が手がけた舞台衣裳

オペラやバレエ、能に歌舞伎、美空ひばりの東京ドーム公演や劇団四季の作品など、森は数々の舞台衣裳を手がけてきました。特に、彼女が初めて訪れたニューヨークで見たオペラ「蝶々夫人」が描くかよわい日本人女性像は、彼女の反骨精神を奮起させ世界へはばたくきっかけにもなりました。それ故に浅利慶太と手がけた同公演は彼女にとっても重要な意味合いを持っています。数々のステージから代表作を紹介します。

○ 銀幕を彩った映画衣裳

1950年代から60年代にかけて続いた日本映画の黄金期。当時二十代の森は、浅丘ルリ子や岡田茉莉子、石原裕次郎といった銀幕スターらの数百もの映画の衣裳を創り、小津安二郎や吉村公三郎、大島渚といった名監督の下で多くを学びました。映像の中での表現を通じ人間の本質について学んだ、若かりし頃の森の仕事についてパネルや映像を交え紹介いたします。

○ ユニフォーム、日本の顔として

世界各地に降り立ってきた日本航空、260名におよぶ日本選手団を送り出したバルセロナ五輪、70年の大阪万博など、森は国際舞台で輝く人々に向けたユニフォームをデザインしてきました。シーンに合わせた機能性と美しさを兼ね備えたユニフォームは、日本の顔として人々に親しまれています。森が手がけたユニフォームの中から、代表作を展示します。

○ 森英恵のライフストーリー

森英恵は、戦後の日本から世界にはばたいた女性として、多くの人から憧れの眼差しを向けられてきました。華やかなショー、セレブリティとの交流、多彩なアーティストとの交流。しかし、彼女の功績の背後には、語りつくせない努力がありました。日本人として、挑戦を重ねてきた森の半生を、彼女の言葉や写真などを通して辿ります。

【関連プログラム】 ※料金は展覧会入場料に含まれます

■ 担当キュレーターによるギャラリー・ツアー

展覧会担当キュレーターが展覧会を解説付きでご案内します。

日時：3月12日（木）16:00～17:00

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

料金：無料 ※参加ご希望の方はギャラリー入口にお集まりください。

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：3月7日（土）～5月2日（土） 毎週土曜日 各日 14:30～（約40分）

※都合により中止になる場合がございます。

【同時開催】

開館30周年記念事業

■ 磯崎 新一 水戸芸術館 縁起—

建築家磯崎 新一による美術館設計を振り返るシリーズの一環として、当館では水戸芸術館の設計コンセプトや経緯について、資料を中心に紹介する小規模な展覧会を会期を延長して開催します。

会期：2019年11月16日（土）～5月6日（水・振）

※1月27日（月）～2月21日（金）の間は閉場します

会場：現代美術ギャラリー第9室

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

企画：磯崎新アトリエ／水戸芸術館

※料金は展覧会入場料に含まれます



【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



2



3



4



5



6



7



1. HANA MORI Haute Couture Collection 撮影：伊奈英次、画像提供：島根県立石見美術館
2. HANA MORI Haute Couture Collection
3. HANA MORI Haute Couture Collection
4. HANA MORI Haute Couture Collection 撮影：与田弘志
5. HANA MORI Haute Couture Collection 撮影：与田弘志
6. デスク周りに置かれた仕事道具 撮影：渡辺剛
7. 『蝶々夫人』2002年中国公演 撮影：三好英輔、画像提供：劇団四季

プレス向け内覧会のお知らせ

2020年2月21日(金) 14:00～15:30 受付開始 13:30

場 所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：大津良夫（水戸芸術館副館長）

山峰潤也（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：山峰潤也（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、佐藤麻衣子（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

*詳細は公式ツイッター http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後バスの進行方向に進み、すぐの交差点で大通り（国道50号）を渡り、脇道をまっすぐにお進みください。徒歩2分。

◎料金：特急片道3,890円／普通各停片道2,310円（2019年12月現在）

※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。JR東日本旅客鉄道 Tel.029-221-2836

<http://www.jreast.co.jp/>

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。

◎料金：東京駅～水戸駅片道切符2,120円。ツインチケット（2枚綴り回数乗車券4,000円）。（2019年12月現在）

※詳しくはこちらをご参照ください。茨城交通 Tel.029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面に約20分お進みください。国道349号との交差点「南町3丁目」で左折（左手にみずほ銀行があります）、「2つ目の信号」を左折してください。そこから信号1つ過ぎた左側が水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場の出入り口です。

◎駐車場料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円／営業時間：7:00～23:00

※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。

東日本高速道路「ドラぶら」 Tel.0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>